

# 学校における川崎病罹患児の医学的管理と生活管理の現状について

(分担研究：川崎病のサーベランスに関する研究)

浅井利夫

要約：東京都内某区と某県の小中学校の養護教諭を対象に、川崎病罹患児の医学的管理や生活管理状況と必要な資料について調査した。結果、数は少なかったが不適切な管理がなされている例が発見された。同時に川崎病罹患児の管理に学校群差、地域差があることも判明した。そこで、川崎病罹患児や関係者用の教育用資料を作成し、全国的に統一のある適切な管理指導が出来るようすることの必要性が明らかになった。

見出し語：医学的管理、生活管理、アンケート調査、学校、教育資料

## 目的

川崎病罹患児や家族など関係者に対する教育は患者の健康管理や不安解消などさまざまな利点がある。そこで、川崎病罹患児や関係者用の教育用資料の作成は、本研究班のプロジェクト研究の1つとして取り上げられた。本年度は、川崎病罹患児や家族など関係者に対する教育資料作成の基礎資料とすることを目的に、学校関係者に川崎病罹患児の管理状況調査を行ったので報告する。

## 対象および方法

対象は東京都内某区と某県の小中学校の養護教諭である。東京都内某区の対象校数は小学校が71校、中学校が33校で、某県の対象校数は小学校が

240校、中学校が82校であった。

調査方法はアンケート調査表を作り、配布し回収した。なお、調査は重複回答方式で行った。

調査内容は心臓後遺症を残していない川崎病罹患児の医学的管理や生活管理の状況について調査し、学校における管理に必要な資料についても質問した。

## 結果

1) 医学的管理の状況について

a) 小学校について

東京都内某区の小学校における医学的管理の状況は本人に任せているが39.4%、特別な指導はしていないが38.0%、毎年心臓病管理指導表を提出

東京女子医科大学付属第2病院小児科：Department of pediatrics, Tokyo Women's Medical Collage

2nd Hospital

させているが36.6%と多く、放置に近い状況が約75%に見られた。同時に約30%頻度で、毎年心臓病管理指導表を提出させている、病院の受診を勧めている、心臓検診を受けさせているなどが見られた(表1)。

某県の小学校における医学的管理の状況は特別な指導はしていないが26.7%、本人に任せているが34.6%と放置に近い状況が約60%もみられた。毎年心臓病管理指導表を提出させている、病院の受診を勧めている、心臓検診を受けさせているなどは東京都某区より低頻度であった。

#### b) 中学校について

東京都内某区の中学校における医学的管理の状況は本人に任せているが51.5%、特別な指導はしていないが30.3%と圧倒的に多く、小学校より放

置されている傾向がみられた。毎年心臓病管理指導表を提出させているが15.2%と小学校の約半分であった。毎年心臓病管理指導表を提出させている、病院の受診を勧めている、心臓検診を受けさせているなども小学校に比較して減少していたが、マラソン大会などの時に検診を受けさせる学校の頻度は小学校より多かった。

某県の中学校における医学的管理の状況は特別な指導はしていないが23.1%、本人に任せているが25.6%と放置に近い状況が約50%もみられた。毎年心臓病管理指導表を提出させている、病院の受診を勧めている、心臓検診を受けさせているなどは東京都某区より高頻度であった。

#### 2) 生活指導の状況について

##### a) 小学校について

## 医学的管理に関する調査成績

### 東京都内

内容	小学校 (71校)	中学校 (33校)
本人・家族にまかせている。	28校 (39.4%)	17校 (51.5%)
特別な指導はしていない。	27校 (38.0%)	10校 (30.3%)
毎年、心臓病管理指導表を提出するよう指導している。	26校 (36.6%)	5校 (15.2%)
毎年、病院の受診を勧めている。	13校 (18.3%)	3校 (9.1%)
マラソン大会など必要な時のみ病院の受診を勧めている。	2校 (2.8%)	2校 (6.1%)
毎年、学校心臓検診を受けるよう指導している。	3校 (4.2%)	0校 (0.0%)
その他	1校 (1.4%)	0校 (0.0%)
記入なし	8校 (11.3%)	4校 (12.1%)

### 某県内

内容	小学校(240校)	中学校 (82校)
本人・家族にまかせている。	64校 (26.7%)	19校 (23.1%)
特別な指導はしていない。	83校 (34.6%)	21校 (25.6%)
毎年、心臓病管理指導表を提出するよう指導している。	29校 (12.1%)	9校 (11.0%)
毎年、病院の受診を勧めている。	12校 (5.0%)	6校 (7.3%)
マラソン大会など必要な時のみ病院の受診を勧めている。	6校 (2.5%)	2校 (2.4%)
毎年、学校心臓検診を受けるよう指導している。	6校 (2.5%)	3校 (3.7%)
その他	3校 (1.3%)	3校 (3.7%)
記入なし	95校 (39.6%)	36校 (43.9%)

東京都内某区の小学校における生活指導の状況は運動制限をしていないが62.0%、心臓病管理指導表の通りしているが54.9%と大部分の例で適切な生活指導がされていたが、プール授業で帽子に印を付ける、プール授業を制限するなどが少数校ではあるがあった。(表2)。

某県の小学校における生活指導の状況は運動制限をしていないが54.2%、心臓病管理指導表の通りしているが5.0%と大部分の例で適切な生活指導がされていた。プール授業で帽子に印を付ける学校は1校もなかったが、プール授業を制限する・マラソン大会を禁止する学校が1校あった。

b) 中学校について

東京都内某区の中学校における生活指導の状況は運動制限をしていないが66.7%、心臓病管理指導表の通りしているが27.3%と小学校同様に大部

分の例で適切な生活指導がされていた。プール授業で帽子に印を付けるが1校あった。

某県の中学校における生活指導の状況は運動制限をしていないが51.2%、心臓病管理指導表の通りしているが19.5%と大部分の例で適切な生活指導がされていた。プール授業で帽子に印を着ける、プール授業を制限するなどは1校もなかった。

3) 学校における管理に必要な資料について

自由記載方式で調査したので、数字としてはないが、主な希望は以下のようであった。

- ①管理にどんな検査が必要かなど検査に関する資料が欲しい。
- ②いつまで管理・指導したらよいかなど管理方法に関する資料が欲しい。
- ③専門病院・専門医がいなく、専門病院・専門医のリストが欲しい。

## 生活指導に関する調査成績

### 東京都内

内容	小学校 (71校)	中学校 (33校)
運動制限はしていない。	44校 (62.0%)	22校 (66.7%)
提出されている心臓病管理指導表の通り指導している。	39校 (54.9%)	9校 (27.3%)
プール授業時には帽子に印を付けたり、色を変えている。	5校 (7.0%)	1校 (3.0%)
プール授業は禁止している。	1校 (1.4%)	0校 (0.0%)
記入なし	8校 (11.3%)	5校 (15.2%)

### 某県内

内容	小学校(240校)	中学校 (82校)
運動制限はしていない。	130校 (54.2%)	42校 (51.2%)
提出されている心臓病管理指導表の通り指導している。	12校 (5.0%)	16校 (19.5%)
プール授業時には帽子に印を付けたり、色を変えている。	0校 (0.0%)	0校 (0.0%)
プール授業は禁止している。	1校 (0.4%)	0校 (0.0%)
マラソン大会の参加を禁止している。	1校 (0.4%)	0校 (0.0%)
記入なし	96校 (40.0%)	34校 (41.5%)

## 考察

川崎病の管理については1983年と1986年に厚生省川崎病研究班で指針が提言された。いずれの提言でも心臓後遺症のない川崎病罹患児は服薬や運動制限は必要ないとされた。しかし、医学的定期的検診などについては十分な意見の一致を見なかった。長期に渡り定期的に経過を見る必要を強調する意見から経過観察が不必要とする意見まであった。

川崎病は毎年5000～6000人前後発生しており、

罹患児も年々累積され、川崎病罹患児の管理は重要な問題になっている。今回の調査でも川崎病罹患児の管理に学校群差、地域差があることが明確になった。そこで、川崎病罹患児や家族用の教育用資料を作成し、全国的に統一のある適切な管理指導が出来るようすることが必要である。今後、本研究班でも十分に検討し、川崎病罹患児や関係者用の教育用資料を作成し、全国的に統一のある適切な管理指導が出来るようする。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約：東京都内某区と某県の小中学校の養護教諭を対象に、川崎病罹患児の医学的管理や生活管理状況と必要な資料について調査した。結果、数は少なかったが不適切な管理がなされている例が発見された。同時に川崎病罹患児の管理に学校群差、地域差があることも判明した。そこで、川崎病罹患児や関係者用の教育用資料を作成し、全国的に統一のある適切な管理指導が出来るようすることの必要性が明らかになった。